

子供は親の 背を見て育つ



長野県佐久市長

三浦 大助 氏

教育随想



平成17年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
長野県佐久市長 三浦 大助氏	
この人に聞く	2
ブラザー印刷株式会社社長 岡田 康孝氏	
羅針盤	2
生活・総合指導員 塚 正司	
ふれあい	3
広幡小 太田 幹彦 美川中 白川 真理	
特集	4
もうすぐ仲間 額田の小中学校	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
手づくり伝承の会(昭和58年)	
この本を	8

岡崎市とは、旧臼田町時代に江戸幕府末期の龍岡藩藩主で、岡崎市が生誕の地である松平乗謨公にかかわる歴史的由緒により、「ゆかりのまち」として提携し、今年で二十二年目を迎えました。

佐久市は、本年四月一日に旧佐久市・臼田町・浅科村・望月町と合併し、長野県では、五番目となる人口十万人の新生佐久市として誕生しました。

佐久市は、長野県の東部に位置し、上信越自動車道の佐久インターや新幹線佐久平駅の開業で、東京にも通勤できる交通の要衝の地となりました。

このごろの子供たちは、「学校から帰るとテレビばかり」と、どのお母さんに聞いても子供たちの本を読む姿が浮かんできません。いかに情報化時代とはいえ、テレビは完成されたものですから、ただ見て楽しむ

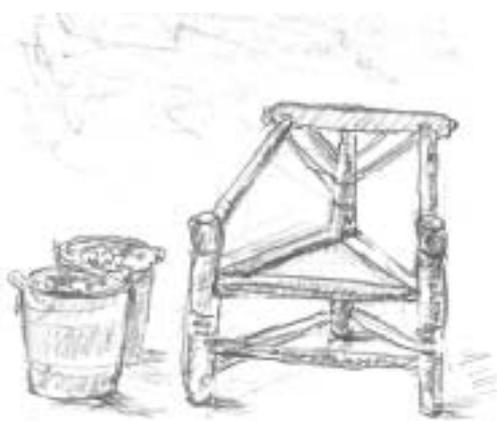
だけに過ぎません。画面がどんどん進行してしまうから、考えるゆとりがありません。思考力を働かせる間がないのです。本はテレビと違います。文字は創造力をかき立てます。私の少年時代には、よく行間を読めと言われたものです。

子供に読書の習慣をつけるには、何といっても親の態度です。「子供は親の背を見て育つ」といいます。子供は親の言うことはなかなか聞いてくれません。しかし必ず親の真似をします。お母さんがテレビを見ながら子供に「本を読みなさい」と言っても、子供は本を読む気になりません。お母さんの読書姿が、子供の読書意欲に大きな影響を与えるものです。

また、私の経験から、幼い子供には、寝る前に布団の中でたとえ五分でも十分でも本を読んで聞かせるこ

とも重要なことだと思えます。これからも佐久市の大切な宝である、子供たちがすこやかに、たくましく、そして心豊かに過ごせる街づくりを進めていきたいと考えております。

(みうら だいすけ)





一生勉強 人生楽しく

ブラザー印刷株式会社社長

岡田 康孝 氏

「子供の遠足と同じで、講演会の前にはうきうきするんですよ」と、楽しそうに話す岡田さん。八十五歳になった今でも、市内はもとより、全国各地で講演活動を行っており、その回数は三六〇回を超える。

「きっかけは、六十五歳のときに出会った一冊の本（城野宏著『戦略行動学』）でした。人間が行動を起こすのに何が大切かを論理的に説明してあるその本に愕然とし、その後、関連した本を読み、様々な講習会に参加しました。そのうちに、こんな

いいことを自分一人のものにしていてはもったいない。何とか広めたいと思い、身近な人に話しはじめたのが一九八九年（六十九歳）。それが始まりでした。」

その後、いろいろなところで講演をし、それが口コミで広がった。今では、企業だけでなく、子供や親、お年寄り幅広い人を対象として講演を続けておられる。

「実は、それまで勉強嫌いでした。しかし、講演をすることを通して、自分が勉強しなければならぬ立場になりました。今では、一生勉強なんだと実感として受け止めるようになりました。」

岡田さんは、終戦後、シベリアでの抑留生活を経験しておられる。当時の生活は過酷だったが、みんなと力を合わせて生き抜いた経験が、今の自分を支えていると語られた。自



分の人生は自分でプラスに変えるしかない。そのために、「暗病反（あんびょうたん）言葉」（＝消極的・否定的な言葉）ではなく、「明元素（めいげんそ）言葉」（＝積極的・肯定的な言葉）を使うことの大切さを訴えてこられた。

「自分自身にもプレッシャーがかかります。笑顔であいさつしなさいと言いながら町で会ったときに、つんとしていたらいけません。自分を律し、有言実行を心掛けています。」

また、今でも若々しい岡田さんに、若さの秘訣をお聞きすると、「学生時代はラグビーで体を鍛えました。今では、講演会をするこ

とが健康の秘訣になっています。みんなからエネルギーを頂けるんです。また、若い人から教えられることもたくさんあり、勉強になります。」

さらに今後のことをお尋ねすると、「言い伝えるのは、私の義務であり、使命です。お呼びがあったらどこにでも行って話したい。」

そう語る岡田さんの言葉の根底に、人間愛と感謝の思いがとうとうと流れているのを感じた。

氏名 おかだ やすたか
生年月日 大正九年一月十六日
住所 岡崎市菟美北二七―五



「総合的な学習の時間」に
取り組む良さ

生活・総合指導員 堺 正司

今年六月、文部科学省から発表された「義務教育に関する意識調査」の中で、総合的な学習の時間（以下「総合」）に関して、肯定的な回答をした中学校の教師が少なかった。

市内の中学校の総合は、職場体験学習を取り入れ、「働く意義」について考える取組が多い。A中学校二年担任B教諭による「働くということについて考えよう」は、道徳や心のノートの内容と関連させ、「働くこと」について話し合う授業であった。

C男は、普段おとなしく、教科の授業ではなかなか発言しない生徒だという。しかし、そのC男が、「お金が大切だよ。お金がないと生きていけないから」と切り出した。これに対してD子が、「自分の特技や能力を生かすことが大切」と言った。さらに、E子が、「家族や社会、人のために働きたい」と発言した。生

A男の笑顔

広幡小 太田 幹彦

「先生、またA男君が休みだよ。」
学級の一人がつぶやいた。

A男は、朝が弱く、他の子と同じように登校することがなかなかできない子である。担任した当初から注意して様子を見てきたつもりであったが、四月の後半から遅刻や欠席が目立つようになってきた。

五月、休みが続いたので、家まで迎えに行った。多少不安を抱きつつ、玄関の戸を開けた。「おはようございます」と、A男は笑顔のあいさつで、私を迎えてくれた。学校に向かう道では、「今日は、B男君と遊ぼうかな」「よし、じゃあ三人で遊ぼう」と、二人だけの初めての対話となった。普段は、感情を表に出す子ではないが、その時の表情からは、



学校は楽しいと感じていることがうかがえた。この日をきっかけに、気軽に会話ができるようになった。

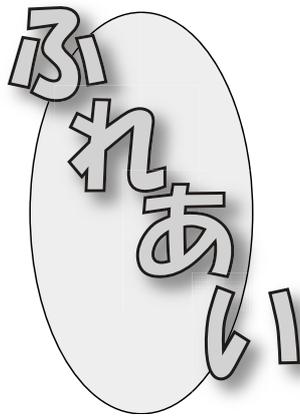
その後、学級でも少し照れながら、「今日は、自分で起きたよ」など、私にいろいろなことを話すようになった。あの「笑顔」が、A男と私の心をぐっと近づけてくれたように感じ、とても嬉しかった。

A男が、少しずつ自分の力で前進できるように、これからも笑顔で見守っていきたい。

誕生日のケーキ

美川中 白川 真理

A男との出会いは昨年四月。小学生のころから不登校気味であった。中学校では一年生の五月から全く学校に来なくなった。そんなA男を二年生で担任することになった。春休みに本人や保護者と話をすることが良かったのか、学校に出られるようになった。しかし、最初は私の問い



かけに、「はい」「いいえ」の返答のみ。触れ合おうとすればするほど、A男はもっと学校から遠ざかってしまうのではないかと、という不安な気持ちに心が広がる。不安を抱えながらも、毎日会うことを心掛けた。

A男は二学期から欠席が減った。それはA男が生活しているあすなろ(適応)教室でのケーキ作りがきっかけであった。ケーキ作りを通して、友達と活動することや自分の手で作り出すことへの楽しみを覚えたのだと思う。私がちょうど誕生日だったこともあり、手作りケーキに添えるために、誕生日の曲が流れる特別なろうそくを買ってきてくれた。私はそれに感動し、A男にありったけの感謝の気持ちを伝えた。

それ以来、前向きな気持ちを感じるようになった。現在もA男の成長する力を日々感じている。今後もその成長を間近で見守っていきたい。

徒の意見が絡み合い、話し合いが大変盛り上がった。

C男が総合で活躍する背景には、彼の思いを生かそうと、対話をしたり感想に朱書きを入れたりしたB教師のきめ細かな支援がある。

話し合い後、B教師から「みんなの意見を聞いてまとめよう。自分がいちばん言いたいところに線を引こう」と指示が出た。これは、生徒の思いを引き出す一つの手立てである。総合は、生徒の思いや願いを生かすことが大切である。C男は、「お金のことばかり言ったけれど、働くということ、自分の特技を生かしたり、人のために尽くしたりすることも大切だ」と練を引いた部分を発表した。みんなの意見を聞いて自分の思いを練り直した発言だった。ここにC男の心の変容を見取ることができる。

その後、C男は、職場体験学習へと活動の意欲を高めていったという。

B教師は、「総合に取り組んでいくうちに、だんだん面白くなってきました」と実感を含めて言われた。総合を通して、生徒だけでなく教師も成長する。総合の良さはそこにある。今、総合の見直しが叫ばれている。こうした時期だからこそ、総合の良さを発信していきたい。

もうすぐ仲間



額田の小中学校

▲ 茶摘み会

宮崎 (みやざき) 小学校

児童数 43 学級数 5

本宮山自然公園「くらがり溪谷」の入り口。昭和49年から続く愛鳥活動を中心に、自然保護活動に取り組む。茶摘みや猪垣調査など、地域学習に早くから取り組む。

学級数の () は特殊学級数を内数で表示

大雨河 (おおあめかわ) 小学校

児童数 15 学級数 3

「学ぶ喜びが生まれる学校・学級」をテーマにふるさと学習「みつわ学習」に取り組む。こどもエコクラブの活動も活発に展開している。



▲ 田植え

来たる平成十八年一月一日、岡崎市が額田町と合併する。
額田町には、小学校八校、中学校一校の計九校がある。最小規模の鳥川小(児童数九名)から最大規模の額田中学校(生徒数二九五名)まで、地元の自然を生かしたり、海外の学校と相互交流を進めたりと、それぞれ魅力的な教育活動を行っている。また、小規模校である大雨河、千万町、鳥川の三小学校では、「集合学習」という共同で行う教育活動を定期的に行うなど、額田町ならではの活動がなされている。
自然に恵まれた額田町と岡崎市が歩みを一つにする。教育活動でもお互いに刺激し合いながら、より良い新生岡崎市へと向かっていきたいものである。

千万町 (ぜまんじょう) 小学校

児童数 10
学級数 3

全校音楽(合奏)に取り組む。昭和41年から「CBCこども音楽コンクール」に毎年出場。「千万町茅葺屋敷」とタイアップしたふるさと体験活動を行っている。



▲ 全校音楽



▲ マレーシアのスリ校と交流

額田 (ぬかた) 中学校

児童数 295 学級数 11(2)

寄宿舎「敬信寮」を有す。寮生 108 名。合唱活動、全校会食など実施。豊富小と小中連携教育を研究中。マレーシアのスリ校と相互交流をしている。



▲ 学区運動会での一輪車ドリル

下山 (しもやま) 小学校

児童数 39 学級数 6

ササユリの保護育成活動にいち早く取り組む。愛鳥活動、農林業体験活動を取り入れた学習を展開。福祉活動にも力を入れている。

夏山 (なつやま) 小学校

児童数 47
学級数 7(1)

水車小屋、夢山など、自然をテーマにした体験活動を取り入れた環境教育を推進。平成 13・14 年度に、ソニー科学教育プロジェクト入選校となった。



▲ 夏山川での自然体験活動



額田町 学校所在地 ▶



▲ ホタル保護の看板立て

鳥川 (とっかわ) 小学校

児童数 9 学級数 3

ゲンジボタルの保護活動を、地域と一体になって取り組む。「ふるさと学習・かがやきタイム (個人追求)」に取り組む。

形埜 (かたの) 小学校

児童数 62 学級数 6

FBC、乙川水質調査、ササユリ・ネコギギの保護、カブトムシ飼育に取り組む。オープンスペースを活用した個性化教育を展開。遠距離通学児童はマイクロバスを利用している。



▲ 地域講師から学ぶカブトムシの飼育活動



▲ 親子作業で森作り

豊富 (とよとみ) 小学校

児童数 281 学級数 13(2)

町内最大規模の小学校。「自主性・主体性の育成」「命を大切にする教育」を推進している。また、英語活動と環境教育を柱に、小中連携教育を研究中である。

お知らせ



● 教育最新情報

○ 学校評価（平成十六年度教育活動診断票の活用状況）

平成十四年に施行された小

学校（中学校）設置基準には、

「小学校（中学校）教育活動そ

の他学校運営の状況について

自ら点検及び評価を行い、そ

の結果を公表するよう努める

ものとする」と書かれている。

本市においても、平成十五

年度に外部評価の提案をし、

平成十六年度に内部評価の提

案をして、全小中学校に実施

するよう呼びかけた。

特色ある学校づくり委員会

が、昨年度の学校評価の実施

状況について、市内の全小中

学校に調査をした。その結果

の一部を紹介する。

① 実施状況

・ 外部評価（児童生徒） 一〇〇%

・ 外部評価（保護者） 一〇〇%

・ 内部評価（教職員） 九十二%

・ 学校評価については、ほぼ

全校が実施しており、定着し

てきたと思われる。

② 実施時期

・ 三学期……………七十八%

・ 二学期……………十四%

・ 毎学期……………六%

・ 一学期……………二%

多くが三学期に実施してい

るが、毎学期実施して細密な

評価をしている学校もある。

③ 実施対象者（全員が評価対象）

・ 児童（小学・六生）生徒用…六十二%

・ 保護者用……………六十七%

・ 教職員用……………九十六%

前回より積極的な取組の学

校が増え、実施対象が一部の

児童生徒・保護者である学校

がかなり減少した。

④ 保護者等へ公表した学校

・ 児童生徒用……………八十三%

・ 保護者用……………九十七%

・ 教職員用……………七十六%

説明責任が求められている

現在、保護者や児童生徒用の

調査結果の公表を積極的に実

施したい。教職員用について

は、各校の判断が必要である。

今回の結果の公表について

は、「学校（校長）により」

が八割を占めている。

⑤ 診断結果の分析・検討の場

・ 職員会議等……………三十八%

・ 管理職……………三十七%

・ 運営委員会等……………二十三%

職員会議等の場で、全教職

員が分析・検討し、次年度に

向けて個々の教育目標を立案

することが重要である。

学校評価で重要なのは、評

価活動を通して、教職員自ら

が教育実践の現状や、目標の

達成度を知り、自律的な学校

改善への意欲を喚起すること

である。

また、開かれた学校、信頼

される学校経営を推進するた

めに、評価結果の公表を一層

進めていきたい。

● 少年自然の家だより

○ 野外活動指導者講習会

本施設では、教師と子供と

で営む野外活動を目標にして

いるため、カウンセラーは配

置していない。したがって、

毎年、野外活動委員会が中心

となって野外活動の実技講習

会を行っている。

本年度は、レクリエーショ

ン指導をはじめ、炊飯活動、

オリエンテーリング、キャン

プファイヤー、カヌー、落ち

葉スキーなどを実習した。中

でも、参加者一人一人に飯ご

うと米を一合ずつ配り、自分

が食べる御飯は自分で炊くと

いう初の経験をした。

本講習会は三十回を数え、

本年度の三十名を加えると、

一四五名が受講したことに

なる。今後も、野外活動にお

ける教師の指導力向上に努め

たい。

○ すぶちワイルドキャンプ

少年自然の家主催事業の中

で最も人気がある「すぶちワ

イルドキャンプ」を、八月十

日から一泊二日で実施した。

小学四年生から中学一年生ま

での児童生徒六十八名が参加

して盛大に行われた。

野外炊飯、落ち葉スキー、

キャンプファイヤーなどにお

いては、毎年参加している子

供も多く、大人もかなわない

ほどの熟練した能力を身に付

けた子もいる。

このキャンプは毎年テーマ

を決め、自然の中での体験活

動を楽しむようにしている。

本年度は、野外での「五平餅

づくり」に挑戦した。子供た

ちは、できたての五平餅を食

べながら楽しんでいた。

退村式の後、子供たちは、

再会を約束し合って、名残惜

しそうに山を後にした。



▲ カヌーを楽しむ子供たち

●表 彰

- ◆平成十七年度第四十九回全国中学校ゴルフ選手権大会(個人の部)
第二位 森本 雄 竜南中三年
- ◆第八回全日本小学生新相撲選手権大会
第三位 佐野真奈香 彦美北郭奉
- ◆愛知県小学校バンドフェスティバル 優秀賞 竜美丘小学校
- ◆第二十六回ジュニアオリンピック 陸上競技大会 愛知県大会
優勝 女子二百M 広野 有衣 矢作北中
男子八百M 市川宗一朗 東海中
- ◆伊藤園「おいお茶」新俳句大賞 特別賞 長屋尚太 河合中二年
- ◆第四十四回岡崎市小学校陸上競技大会
男子総合優勝 矢作南小学校
女子総合優勝 緑丘小学校
- ◆第十一回日本管楽合奏コンテスト 矢作中学校
- ◆平成十七年度学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部
特選 愛知県緑化推進委員会会長賞 小豆坂小学校
入選 愛知県緑化推進委員会会長賞 岡崎小学校

◆第44回岡崎市小学校陸上競技大会

種目	氏名	校名	記録	
男子	5年100m	柴田 洋輝	細川 14"2	
	6年100m	鈴木 希宙	大門 13"2	
	80mH	吉原 慧	大門 12"7	
	1000m	鈴木 慎介	附属 3'09"5	
	400m R	西山・中野 野田・犬塚	矢作南	55"0
		1位	2位	3位
		矢作南	六美西	梅園
	走り幅跳び	中島 隆人	梅園	4m26
	走り高跳び	羽地 有矢	北野	1m40
	ソフトボール投げ	中野 裕太	矢作南	73m41
総合	優勝	2位	3位	
	矢作南	大門	北野	
女子	5年100m	石川 尚美	矢作南 14"5	
	6年100m	山口明日香	大門 14"3	
	80mH	金重 美香	藤川 13"5	
	1000m	石川 華子	三島 3'18"0	
	400m R	久嶋・尾崎 石川・山田	緑丘	58"4
		1位	2位	3位
		緑丘	矢作北	矢作南
	走り幅跳び	辻村 卓音	六名	3m93
	走り高跳び	井崎佐絵理	六美西	1m30
	ソフトボール投げ	青山 侑朱	矢作南	49m12
総合	優勝	2位	3位	
	緑丘	矢作南	藤川	

◆第38回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位	3位
陸上競技	男	六ツ美	南	甲山	—
	女	竜南	六ツ美	美川	—
バスケットボール	男	矢作北	北	葵	甲山
	女	竜海	南	東海	美川
バレーボール	男	矢作	矢作北	東海	北
	女	新香山	竜南	矢作北	矢作
ソフトテニス	男	河合	六ツ美北	城北	甲山
	女	矢作北	城北	福岡	美川
卓球	男	六ツ美北	美川	甲山	竜海
	女	六ツ美	北	矢作北	南
体操	男	矢作北	南	竜海	—
	女	矢作北	東海	南	—
剣道	男	矢作北	北	矢作	甲山
	女	南	竜海	六ツ美北	甲山
ハンドボール	男	美川	葵	六ツ美	—
	女	美川	竜南	六ツ美北	—
軟式野球	男	岩津	南	矢作北	六ツ美
	女	矢作北	葵	城北	矢作
ソフトボール	男	竜南	矢作北	竜海	矢作
	女	六ツ美北	矢作北	甲山	—
サッカー	男	竜南	南	甲山	北
水泳	男	矢作北	葵	竜海	—
	女	矢作北	竜海	葵	—

◆第38回岡崎市中学校新人総合体育大会 水泳競技の部

★印は大会新記録

男子	氏名	校名	記録	女子	氏名	校名	記録
50m自由形	田端倫太郎	矢北	★ 26"9	50m自由形	小島 樹里	附属	29"9
100m自由形	大久保宅登	矢北	1'01"7	100m自由形	天野 理慧	矢北	1'04"8
200m自由形	天野 裕介	南	2'16"3	200m自由形	都築 温実	葵	2'23"5
50m平泳ぎ	堀川 貴史	矢北	34"6	50m平泳ぎ	川波 恵子	竜海	39"5
100m平泳ぎ	谷 隆太	矢北	1'16"1	100m平泳ぎ	大山 有	葵	1'25"1
50mバタフライ	岩瀬健太郎	附属	★ 30"4	50mバタフライ	上村 愛理	城北	★ 32"5
100mバタフライ	森田 和洋	竜海	1'06"7	100mバタフライ	山本紗佑里	矢北	1'17"4
50m背泳ぎ	皆川健一郎	六北	34"8	50m背泳ぎ	岡田 香織	城北	39"1
100m背泳ぎ	石井蒼一郎	葵	1'12"5	100m背泳ぎ	藤原 英子	矢作	1'16"8
200m個人メドレー	岩下 悠太	岩津	2'29"0	200m個人メドレー	中根 知子	東海	2'45"0
400m R	大久保・堀川 内藤・田端	矢北	★ 4'06"0	400m R	天野・岩間 山本・後藤	矢北	4'40"6
400mメドレーR	石井・堀川 内藤・田端	矢北	★ 4'32"2	400mメドレーR	天野・岩間 山本・後藤	矢北	5'12"8
男子総合	優勝	2位	3位	女子総合	優勝	2位	3位
	矢作北	葵	竜海		矢作北	竜海	葵

◆第38回岡崎市中学校新人総合体育大会 陸上競技の部

種目	氏名	校名	記録	
男子	100m	二宮 直紀	甲山 12"2	
	200m	榊原 康政	北 24"1	
	400m	水野 眞治	東海 55"4	
	800m	湯野邦太郎	美川 2'06"6	
	1年1500m	成田 和哉	甲山 4'37"1	
	3000m	正木 翔	南 9'35"5	
	110mH	杉田 慶司	六美北 16"9	
	女子	400m R	太田・鳥居 青山・杉浦	六ツ美 48"4
		走り幅跳び	二宮 直紀	甲山 5m67
		走り高跳び	柵木 慎吾	竜南 1m50
砲丸投げ		杉田 慶司	六美北 10m54	
棒高跳び		戸田 朋文	東海 2m60	
女子	100m	本多 莉緒	矢作北 13"4	
	200m	加藤 麻衣	竜南 28"3	
	800m	後藤 麻由	竜南 2'24"1	
	1年800m	春名 恵里	竜南 2'30"9	
	1500m	成瀬 由希	甲山 4'53"3	
	100mH	藤井 知美	南 17"2	
	400m R	後藤・加藤 谷澤・後藤	竜南 54"7	
	走り幅跳び	宮崎紗也加	南 4m64	
	走り高跳び	中嶋 文望	岩津 1m45	
	砲丸投げ	安田 糸穂	六ツ美 10m68	

・カ
ツ
ト

六ツ美北部小 山中好乃

手づくり伝承の会

(昭和58年)

写真提供：恵田小学校

今、地域の教育力を生かす様々な取組が各校においてなされている。その一つが、お年寄りとの交流である。竹とんぼや木のパズル等の昔のおもちゃづくりや遊びなど、先人からの知恵や工夫について学んでいる。

恵田学区では、昔から伝わる手づくりの生活用具や遊具の良さを子供たちに見直してもらおうと、学区のお年寄りを招いて「手づくり伝承の会」が長きにわたり開かれてきている。三年生以上の児童が、おじいさんたちから「たけぼうき」と「わらざうり」、おばあさんたちから「お手玉」の作り方を習っている。



この本を

- * 団塊の7人 堺屋 太一 日本経済新聞社 ￥1995
- * 里山の言い伝え お天気おさんの十二月月 鈴木二三子 嶋中書店 ￥1500
- * 咀嚼健康法 脳と体を守る 上田 実 中央公論社 ￥714
- * 海馬 脳は疲れない 池谷 裕二他 朝日出版社 ￥1585

* 進化しすぎた脳 中高生と語る 「大脳生理学」の最前線 池谷 裕二 朝日出版社 ￥1575

脳に関する本は教育関係に絞ってみただけでも、この数年間に100点以上出版されている。その中でも本書は際立った特徴を持っていて興味深い。書名にもあるように、中高生に分かりやすく語りかけるという形で書かれている。著者自身が「私自身が高校生のころにこんな講義を受けていたら、きっと人生が変わっていたのではないか？」と述べているように、脳科学の最新情報が詰まった本である。

男の子は五歳、女の子は三歳と七歳。木々が色付いた神社の境内では「髪置き・袴着・帯解」に細く長い千歳飴ちとせあめを手にした幼子こどもがはしゃいでいる。我が子の成長に感謝し、更なる健康を祈願する七五三。この微笑ましい光景を目にする時季になると一層秋の深まりを実感する。

シオ スア

省エネを目的として、この夏「クール ビズ」がスタートした。次は、「ウォーム ビズ」である。官公庁では、暖房設定温度を二十度にするそうである。しかし、一枚余分に着込むのではなく、この冬は、子供とともに外に出て、寒さに負けない体づくりに励むことにしよう。

明日の岡崎に新たな魅力が加わる。二か月後には額田町と合併した新生岡崎市がスタートする。近くにあるながら、今までよく知らないままに過ごしてきた。少人数ながらも地元を自然を生かし、自然と親しむ魅力的な教育活動を行っている額田町。一月から私たちの仲間である。

ススキやドングリに囲まれたおかげさう子展の会場に、市内小中学生の作品が勢ぞろいした。「風と光と空」をテーマにして三度目。どの作品も、子供たちの個性という光で輝いていた。子展四十周年記念誌もCD付きで発刊された。子供たちの力作をぜひ見返してみたい。